

# 2021年度 決算説明会

---

2022年5月13日  
日本新薬株式会社

# 2021年度業績と 2022年度業績見通し

---

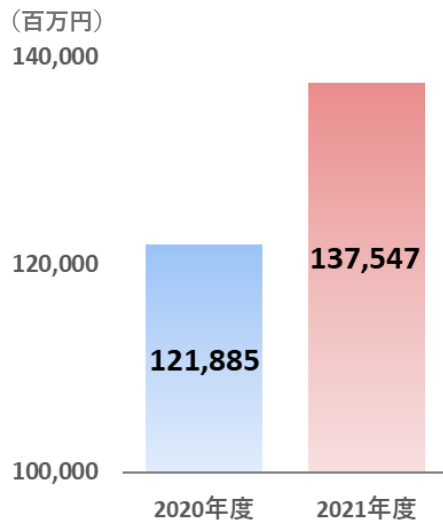
代表取締役社長 中井 亨

# 2021年度 概要

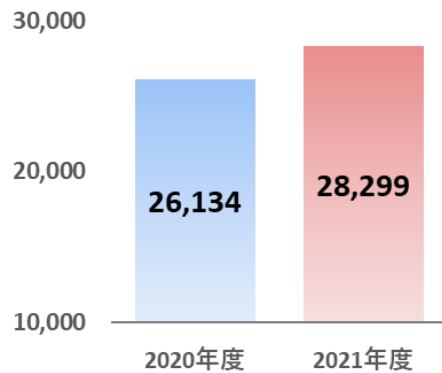


◆ 売上高	: 137,547 百万円	(対前期比 + 12.8%)
◆ 営業利益	: 28,299 百万円	(対前期比 + 8.3%)
◆ 経常利益	: 29,773 百万円	(対前期比 + 11.3%)
◆ 親会社株主に帰属する 当期純利益	: 23,044 百万円	(対前期比 + 11.3%)

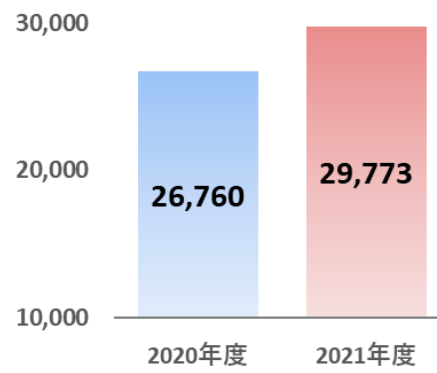
売上高



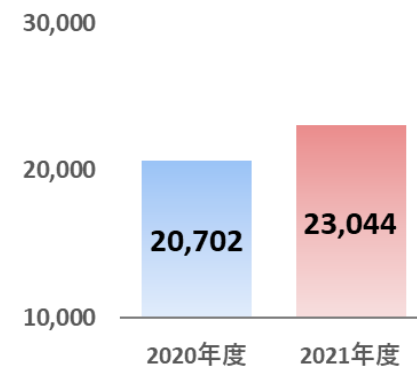
営業利益



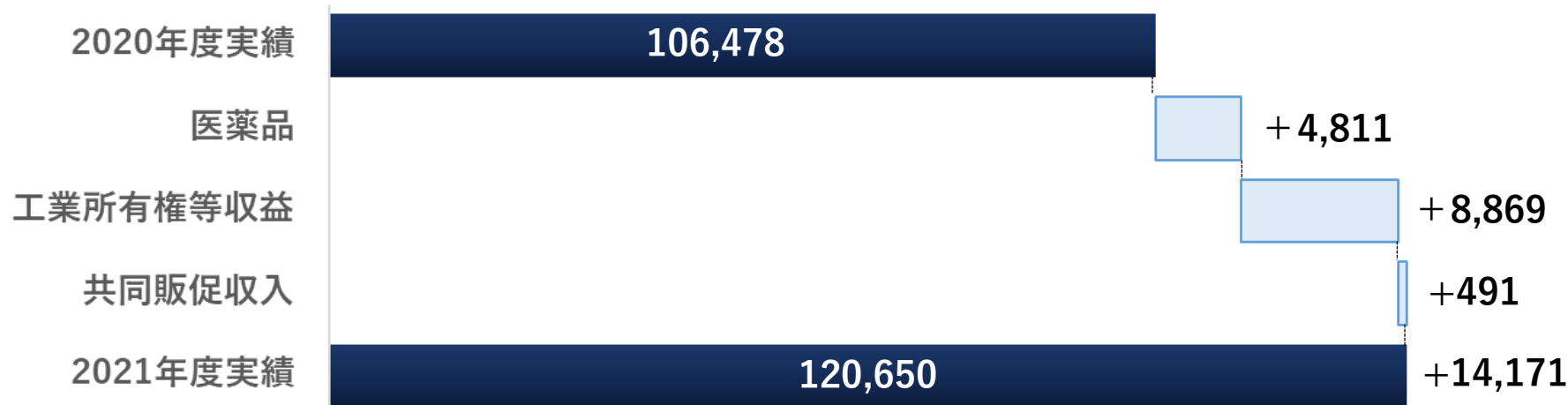
経常利益



親会社株主に帰属する  
当期純利益



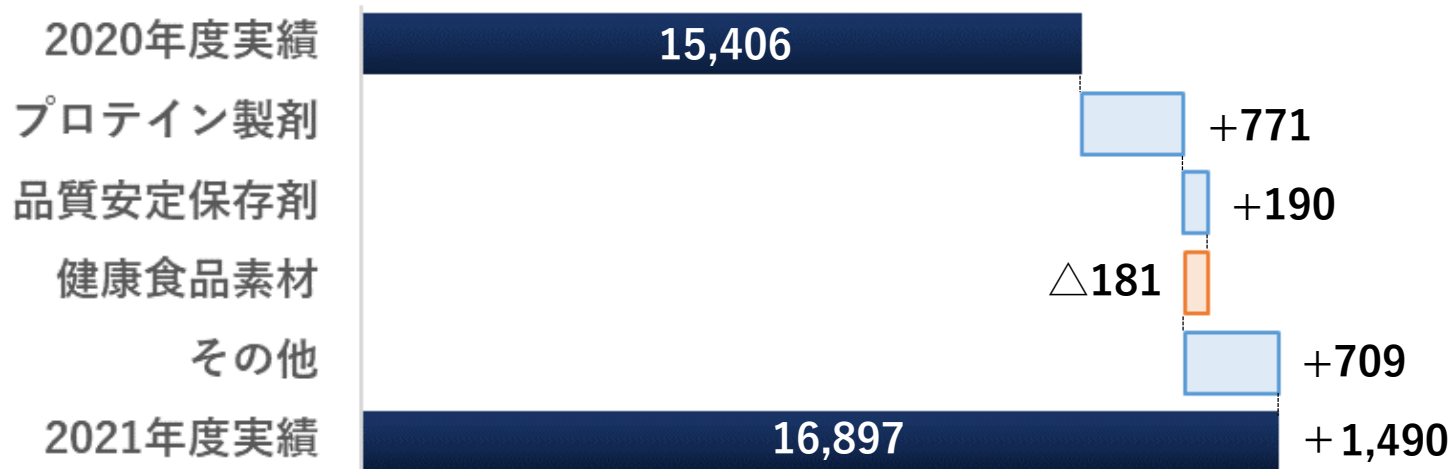
# 医薬品売上の内訳



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
医薬品	73,697	69.2%	78,508	65.1%	+4,811	+6.5%
工業所有権等収益	24,338	22.9%	33,207	27.5%	+8,869	+36.4%
共同販促収入	8,442	7.9%	8,934	7.4%	+491	+5.8%
医薬品合計	106,478	100.0%	120,650	100.0%	+14,171	+13.3%

「ビダーザ」、「ウプトラビ」、「ビルテプソ」等の医薬品売上の伸長、「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入や優先審査バウチャーの売却収入を含む工業所有権等収益等が寄与し、13.3%の増収となりました。

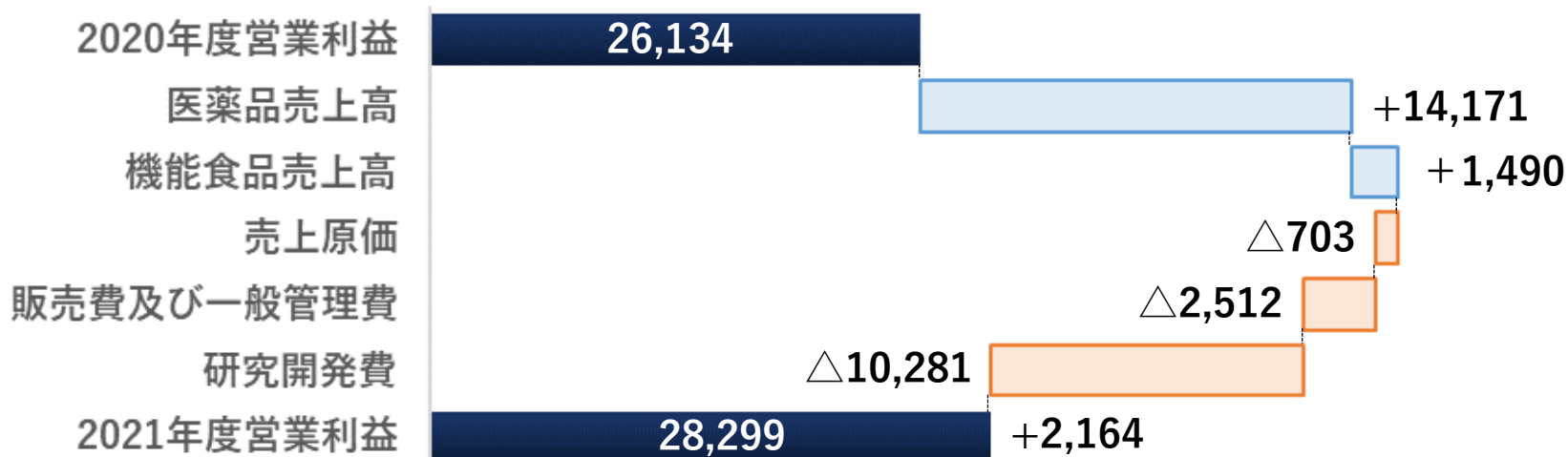
# 機能食品売上の内訳



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
プロテイン製剤	10,121	65.7%	10,892	64.5%	+771	+7.6%
品質安定保存剤	2,597	16.9%	2,787	16.5%	+190	+7.3%
健康食品素材	1,257	8.2%	1,075	6.4%	△ 181	△ 14.4%
その他	1,431	9.2%	2,140	12.6%	+709	+49.6%
機能食品合計	15,406	100.0%	16,897	100.0%	+1,490	+9.7%

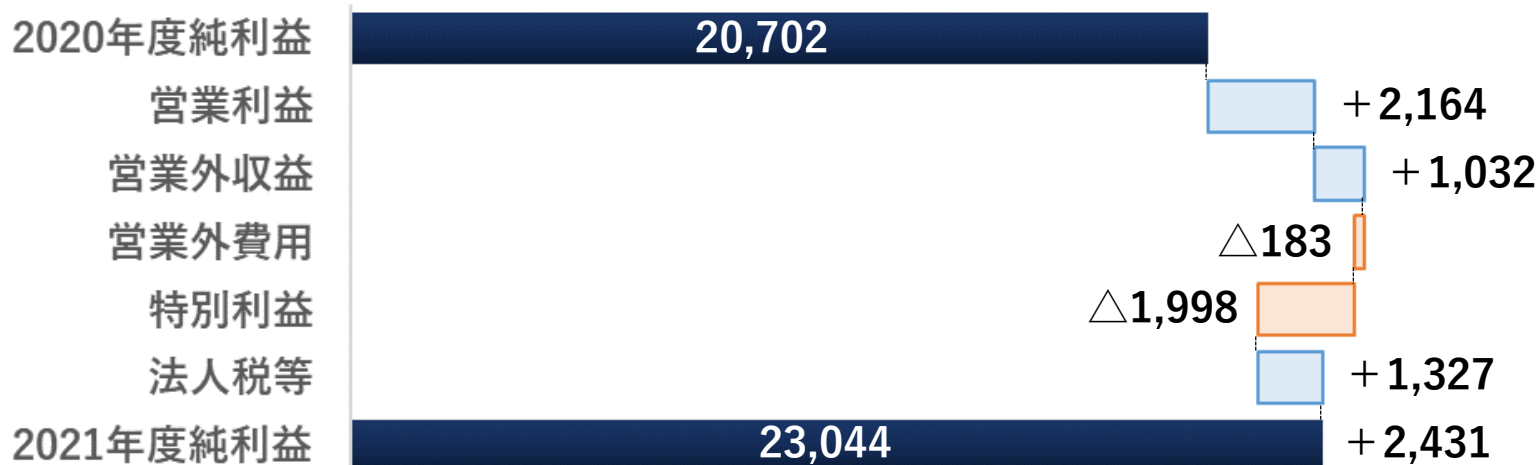
プロテイン製剤、品質安定保存剤等の売上が増加し9.7%の増収となりました。

# 営業利益



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	121,885	100.0%	137,547	100.0%	+15,662	+12.8%
（医薬品）	(106,478)	(87.4%)	(120,650)	(87.7%)	(+14,171)	(+13.3%)
（機能食品）	(15,406)	(12.6%)	(16,897)	(12.3%)	(+1,490)	(+9.7%)
営業費用	95,750	78.6%	109,248	79.4%	+13,497	+14.1%
売上原価	49,954	41.0%	50,657	36.8%	+703	+1.4%
販売費及び一般管理費	29,691	24.4%	32,204	23.4%	+2,512	+8.5%
研究開発費	16,104	13.2%	26,386	19.2%	+10,281	+63.8%
営業利益	26,134	21.4%	28,299	20.6%	+2,164	+8.3%

# 親会社株主に帰属する当期純利益



(百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	差異	増減率
営業利益	26,134	28,299	+2,164	+8.3%
営業外収益	1,326	2,359	+1,032	+77.8%
営業外費用	701	884	+183	+26.2%
経常利益	26,760	29,773	+3,013	+11.3%
特別利益	1,998	-	△ 1,998	-
法人税等	8,056	6,729	△ 1,327	△ 16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20,702	23,044	+2,341	+11.3%

# 2022年度 連結業績予想 (IFRS)



(百万円)	2021年度 実績*	2022年度 予想	差異	増減率
売上収益	137,484	134,000	△ 3,484	△ 2.5%
営業利益	32,936	27,000	△ 5,936	△ 18.0%
税引前利益	33,266	27,500	△ 5,766	△ 17.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	25,011	21,500	△ 3,511	△ 14.0%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

国際的な比較可能性の向上を図ることを目的として、  
2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表より、  
国際財務報告基準 (IFRS) の任意適用を行います。



# 医薬品売上予想の内訳 (IFRS)



(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
医薬品	78,508	65.1%	75,700	65.8%	△ 2,808	△ 3.6%
工業所有権等収益	33,207	27.5%	29,800	25.9%	△ 3,407	△ 10.3%
共同販促収入	8,934	7.4%	9,500	8.3%	+566	+6.3%
医薬品合計	120,650	100.0%	115,000	100.0%	△ 5,650	△ 4.7%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

「ビルテプソ」や「ウプトラビ」などの新製品群の伸長、  
「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入を含む  
工業所有権等収益や共同販促収入などの伸長が見込まれるものの、  
薬価改定や「ビダーザ」の後発品発売、前連結会計年度にあった  
優先審査バウチャーの売却収入の反動により、  
減収を見込んでいます。

# 機能食品売上予想の内訳 (IFRS)

(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
プロテイン製剤	10,870	64.6%	13,000	68.4%	+2,130	+19.6%
品質安定保存剤	2,788	16.6%	2,900	15.3%	+112	+4.0%
健康食品素材	1,078	6.4%	1,100	5.8%	+22	+2.0%
その他	2,096	12.4%	2,000	10.5%	△ 96	△ 4.6%
機能食品合計	16,834	100.0%	19,000	100.0%	+2,166	+12.9%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

新製品開発・投入に一層注力し、重点品目への取り組みを強化することで、増収を見込んでいます。

# 予想損益計算書 (IFRS)



(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
売上収益	137,484	100.0%	134,000	100.0%	△ 3,484	△ 2.5%
(医薬品)	(120,650)	(87.8%)	(115,000)	(85.8%)	(△ 5,650)	(△ 4.7%)
(機能食品)	(16,834)	(12.2%)	(19,000)	(14.2%)	(+2,166)	(+12.9%)
売上原価	50,188	36.5%	51,000	38.1%	+812	+1.6%
販売費及び一般管理費	32,195	23.4%	31,900	23.8%	△ 295	△ 0.9%
研究開発費	22,870	16.6%	24,400	18.2%	+1,530	+6.7%
その他の収益	1,578	1.1%	800	0.6%	△ 778	△ 49.3%
その他の費用	872	0.6%	500	0.4%	△ 372	△ 42.7%
営業利益	32,936	24.0%	27,000	20.1%	△ 5,936	△ 18.0%
金融収益	472	0.3%	500	0.4%	+28	+5.8%
金融費用	142	0.1%	-	-	△ 142	-
税引前利益	33,266	24.2%	27,500	20.5%	△ 5,766	△ 17.3%
法人所得税費用等	8,254	6.0%	6,000	4.5%	△ 2,254	△ 27.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	25,011	18.2%	21,500	16.0%	△ 3,511	△ 14.0%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

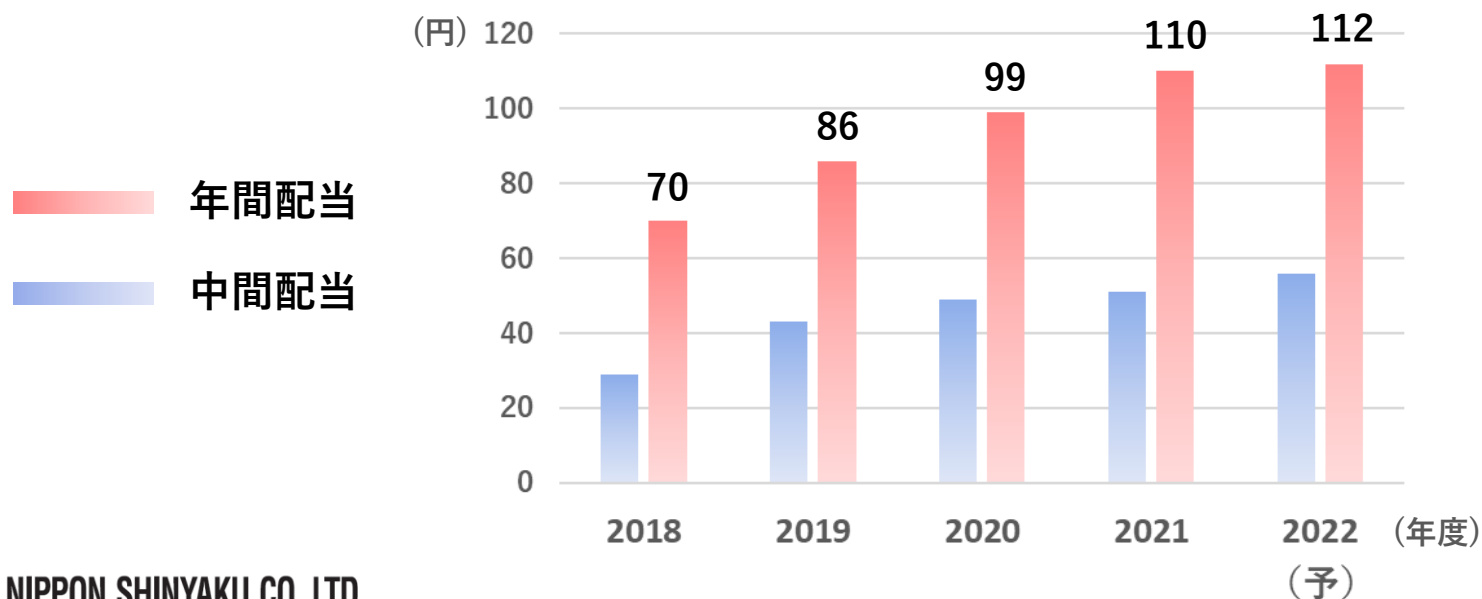
# 配当予想



	2021年度	2022年度
普通株式1株当たり配当金	中間配当金	56 円
	年間配当金	112 円
1株当たり当期純利益 / 基本的1株当たり当期利益	342.14 円	319.21 円
配当性向（連結）	32.2 %	35.1 %

\* 2021年度の期末配当金については52円から59円へ増配

\* 2022年度の基本的1株当たり当期利益および配当性向（連結）については、国際財務報告基準（IFRS）に基づき算出



# 研究開発の進捗状況

---

取締役 研究開発担当 高垣 和史

# 研究開発の進捗状況（国内）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	PI/II 準備中	PII	PIII 準備中	PIII	申請中	発売準備中	発売
NS-065/NCNP-01 (ピトフルセン) (自社)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー					PIII 実施中			
NS-32 (デイルイマルトス第二鉄) (導入)	新成分	鉄欠乏性貧血								
ZX008 (フェンフルタミン塩酸塩) (導入)	新成分	ドラベ症候群								
ZX008 (フェンフルタミン塩酸塩) (導入)	新成分	レノックス・ガスター症候群								
GA101 (オビクス マブ) (導入)	新効能	ループス腎炎								

■ : 2021年度第3四半期決算時からの変更箇所

# 研究開発の進捗状況（国内）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	PI / II 準備中	PII	PIII準備中	PIII	申請中	発売準備中	発売
NS-304 (ヒレキシパグ) (自社)	新効能	閉塞性動脈硬化症								
	新用量	小児肺動脈性肺高血圧症								
NS-580 (自社)	新成分	子宮内膜症								
NS-87 (daunorubicin / cytarabine) (導入)	新配合	二次性急性骨髄性白血病								
NS-401 (tagraxofusp) (導入)	新成分	芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍								
NS-229 (自社)	新成分	炎症性疾患								
NS-917 (radgocitabine) (導入)	新成分	再発・難治性急性骨髄性白血病								

■ : 2021年度第3四半期決算時からの変更箇所

# 研究開発の進捗状況（海外）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	P II 準備中	P II	P III 準備中	P III	発売
NS-065/NCNP-01 (ビルトラルセン) (自社)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー					P III 実施中	
CAP-1002 (提携)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー						
NS-018 (iliginatinib) (自社)	新成分	骨髄線維症						



# 参考資料

---

# 2021年度 連結業績



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	121,885	100.0%	137,547	100.0%	+15,662	+12.8%
（医薬品）	(106,478)	(87.4%)	(120,650)	(87.7%)	(+14,171)	(+13.3%)
（機能食品）	(15,406)	(12.6%)	(16,897)	(12.3%)	(+1,490)	(+9.7%)
売上原価	49,954	41.0%	50,657	36.8%	+703	+1.4%
販売費及び一般管理費	29,691	24.4%	32,204	23.4%	+2,512	+8.5%
研究開発費	16,104	13.2%	26,386	19.2%	+10,281	+63.8%
営業利益	26,134	21.4%	28,299	20.6%	+2,164	+8.3%
営業外収益	1,326	1.1%	2,359	1.7%	+1,032	+77.8%
営業外費用	701	0.5%	884	0.7%	+183	+26.2%
経常利益	26,760	22.0%	29,773	21.6%	+3,013	+11.3%
特別利益	1,998	1.6%	-	-	△ 1,998	-
法人税等	8,056	6.6%	6,729	4.9%	△ 1,327	△ 16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20,702	17.0%	23,044	16.8%	+2,341	+11.3%

# 財政状況



(百万円)	2020年度	2021年度	差異	2020年度	2021年度	差異	
	期末実績	期末実績			期末実績		
資産の部	197,028	210,052	+13,024	負債の部	34,485	33,285	△ 1,199
(流動資産)	139,090	149,632	+10,542	(流動負債)	31,514	29,288	△ 2,225
(固定資産)	57,937	60,419	+2,482	(固定負債)	2,970	3,997	+1,026
				純資産の部	162,543	176,767	+14,223
合計	197,028	210,052	+13,024	合計	197,028	210,052	+13,024

## = 資産の部 =

現金及び預金	+ 2,643
受取手形及び売掛金	+ 2,839
たな卸資産	+ 2,329
有形固定資産	+ 2,574
繰延税金資産	+ 1,305

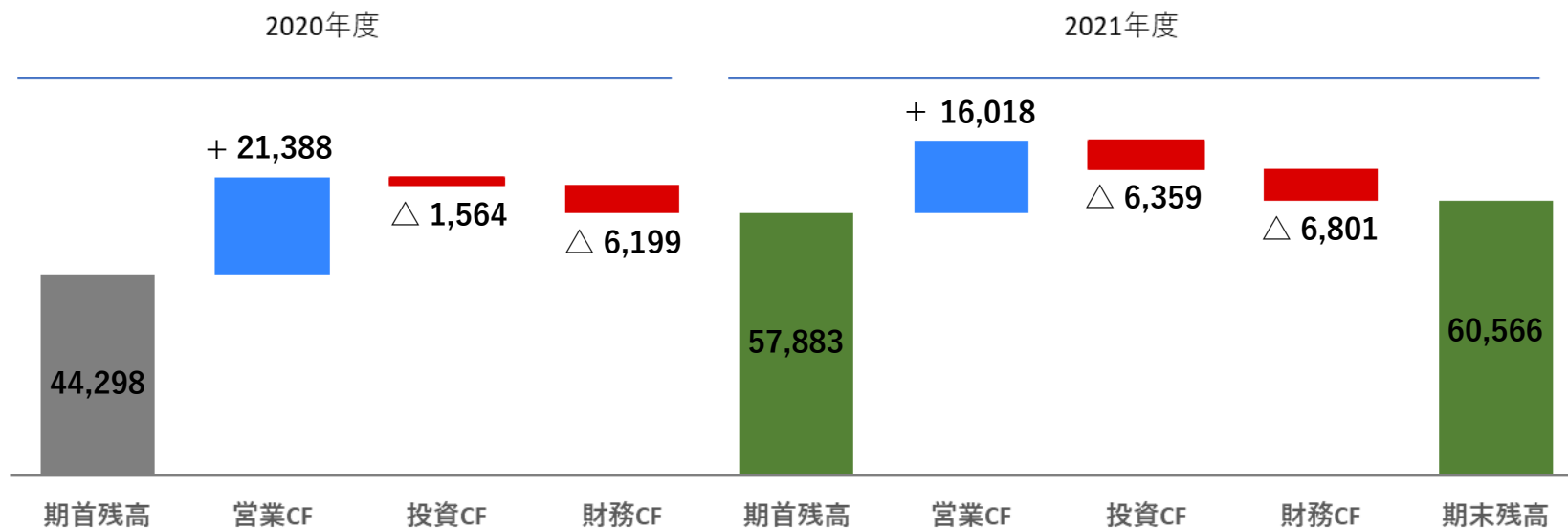
## = 負債・純資産の部 =

未払金	+ 2,956
未払法人税等	△ 3,497
未払消費税等	△ 381
退職給付に係る負債	+ 1,033
利益剰余金	+ 16,241

# キャッシュ・フローの状況



(百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	差異
営業活動による キャッシュ・フロー	21,388	16,018	△ 5,369
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,564	△ 6,359	△ 4,795
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 6,199	△ 6,801	△ 602
現金及び現金同等物の 期末残高	57,883	60,566	+2,683





- 開発段階** : 国内 発売  
          : 米国 発売  
          : グローバルPⅢ試験実施中
- 開発形態** : 自社開発
- 作用機序** : エクソン53スキッピング
- 適 応 症** : デュシェンヌ型筋ジストロフィー
- 剤 型** : 注射剤
- 特 徴** :  
          • 欠損したジストロフィンの産生を回復  
          させて疾患の進行抑制と病態改善を期待  
          • 高い安全性が示唆されるモルフォリノ  
          核酸をベースに活性を最大化



## － 鉄欠乏性貧血治療剤 －

**開発段階**： 発売準備中

**開発形態**： 自社開発

2016/12 ファーマコスモス社より導入

**作用機序**： 鉄剤

**適応症**： 鉄欠乏性貧血

**剤型**： 注射剤

**特徴**：

- ・ 高用量の鉄を安全に投与できる
- ・ 鉄と糖の安定な複合体であり、遊離鉄が少なく、副作用が出にくい
- ・ 低リン血症のリスクが低い



## － 難治てんかん治療剤 －

- 開発段階：**〈ドラベ症候群〉申請中  
〈レノックス・ガストー症候群〉PIII試験
- 開発形態：**ゾジェニックス社が実施  
2019/3 ゾジェニックス社より導入
- 作用機序：**セロトニン作動薬
- 適 応 症：**ドラベ症候群および  
レノックス・ガストー症候群
- 剤 型：**経口服液剤
- 特 徴：**
- ・ 既存治療に不応な難治例に有効
  - ・ 他剤との併用が可能（難治てんかんの治療は薬剤併用を基本とする）



## デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤

- 開発段階**：米国 PIII 試験準備中
- 開発形態**：カプリコール・セラピューティクス社が実施  
2022/1 カプリコール・セラピューティクス社  
と米国における販売提携契約を締結
- 作用機序**：心筋由来細胞によるエクソソーム放出
- 適応症**：デュシェンヌ型筋ジストロフィー
- 剤型**：注射剤
- 特徴**：
  - ・本剤から分泌されるエクソソームによる、酸化ストレス・炎症・線維化の低減、細胞エネルギーや筋細胞の生成の増加により、運動機能や心機能を改善することが期待される
  - ・遺伝子変異の種類に依らず、幅広い患者層が対象となる





**開発段階：** PIII試験準備中

**開発形態：** 中外製薬株式会社と共同開発

2012/11 中外製薬株式会社より導入

**作用機序：** 抗CD20モノクローナル抗体

**適 応 症：** ループス腎炎

**剤 型：** 注射剤

**特 徴：** 速やかかつ確実なB細胞殺傷効果が期待される



- 開発段階：**〈ASO〉 P II b試験  
〈小児PAH〉 P II 試験
- 開発形態：**〈ASO〉 自社開発  
〈小児PAH〉  
ヤンセンファーマ株式会社と共同開発
- 作用機序：**選択的プロスタサイクリン (IP)  
受容体アゴニスト
- 適 応 症：**閉塞性動脈硬化症 (ASO)  
小児肺動脈性肺高血圧症 (小児PAH)
- 剤 型：**錠剤
- 特 徴：**長時間作用型経口剤



**開発段階**： P II a試験

**開発形態**： 自社開発

**作用機序**： 膜結合型プロスタグランジンE合成酵素-1  
(mPGES-1) 阻害

**適 応 症**： 子宮内膜症

**剤 型**： 経口剤

**特 徴**： ホルモン作用のない子宮内膜症治療剤で  
鎮痛効果と病巣の改善効果が期待される



## — 骨髄線維症治療剤 —

**開発段階**： 米国P II 試験準備中

**開発形態**： 自社開発

**作用機序**： JAK 2 阻害

**適 応 症**： 骨髄線維症

**剤 型**： 錠剤

**特 徴**：

- ・ 強力なJAK 2 阻害作用と活性化型JAK 2 に対する選択性が高い
- ・ 治療薬がなく病態の改善が見込めない血小板数が少ない骨髄線維症患者に対し、高い有効性と安全性が期待される



## — 二次性急性骨髄性白血病治療剤 —

**開発段階：** P I / II 試験

**開発形態：** 自社開発

2017/3 ジャズ・ファーマシューティカルズ社  
より導入

**作用機序：** 抗腫瘍効果

**適 応 症：** 二次性急性骨髄性白血病（二次性AML）

**剤 型：** 注射剤

**特 徴：**

- ・シタラビンとダウノルビシンのリポソーム製剤
- ・国内初の二次性AML治療剤で、最も抗腫瘍効果の高い比率（5：1、モル比）で有効成分を放出することにより、高い有効性と副作用の低減が期待される



**開発段階：** P I / II 試験準備中

**開発形態：** 自社開発

2021/3メナリーニ社より導入

**作用機序：** CD123を標的とする抗がん作用

**適 応 症：** 芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍

**剤 型：** 注射剤

**特 徴：** IL-3とジフテリアトキシンの融合蛋白質であり、CD123を発現するがん細胞に取り込まれ、がん細胞を死に至らしめることで効果を発現する



## — 炎症性疾患治療剤 —

**開発段階**：PI試験

**開発形態**：自社開発

**作用機序**：JAK1阻害

**適応症**：炎症性疾患

**剤型**：経口剤

**特徴**：

- ・強力なJAK1阻害作用を有する
- ・JAK1選択性の高さに基づき、高い有効性と安全性が期待される



**開発段階**： P I 試験

**開発形態**： 自社開発

2017/3 デルタフライファーマ社より導入

**作用機序**： 代謝拮抗剤と異なる殺細胞作用

**適 応 症**： 再発・難治性急性骨髄性白血病

**剤 型**： 注射剤

**特 徴**：

- ・ 既存の代謝拮抗剤とは異なる作用メカニズム
- ・ 低用量持続静注による、高い有効性と安全性を示す（高齢者にも投与可能、重篤な消化管障害等の非血液学的毒性が低い）



## 将来見通しに関する注意事項

- ▶本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらの文書は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文書とは異なる現実的な結論、結果を招きうる不確実性に基づくものです。
- ▶それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、貨幣為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了ならびに中止、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関からの承認取得、国内外の社会保障制度関連改革、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ▶また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- ▶新しい情報、将来の出来事もしくははその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。



**日本新薬株式会社**

2022年3月期決算説明会

2022年5月13日

中井：日本新薬社長の中井亨でございます。

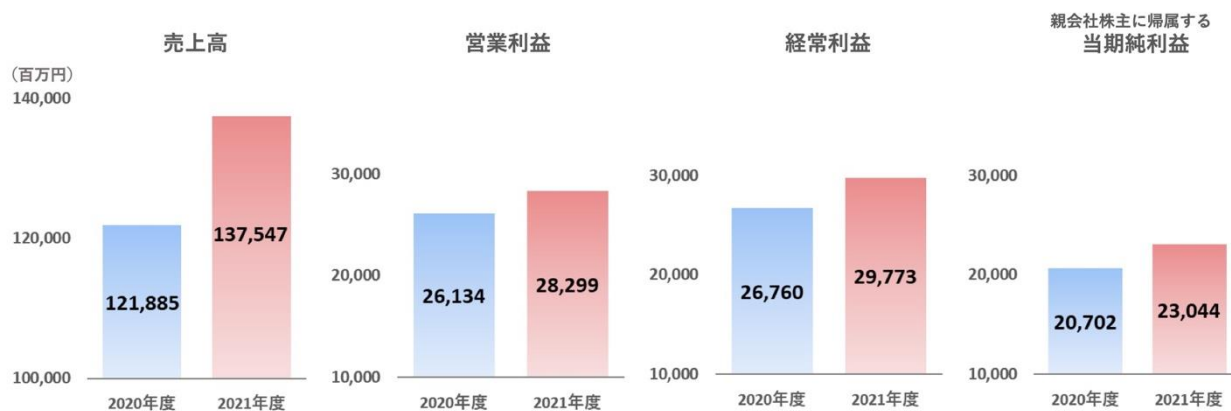
本日は、弊社の2021年度決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本日は、私から、2021年度の業績と2022年度通期業績見通しを、また、研究開発品目の進捗状況につきましては、高垣から説明させていただきます。

## 2021年度 概要



◆ 売上高	: 137,547 百万円	(対前期比 + 12.8%)
◆ 営業利益	: 28,299 百万円	(対前期比 + 8.3%)
◆ 経常利益	: 29,773 百万円	(対前期比 + 11.3%)
◆ 親会社株主に帰属する 当期純利益	: 23,044 百万円	(対前期比 + 11.3%)

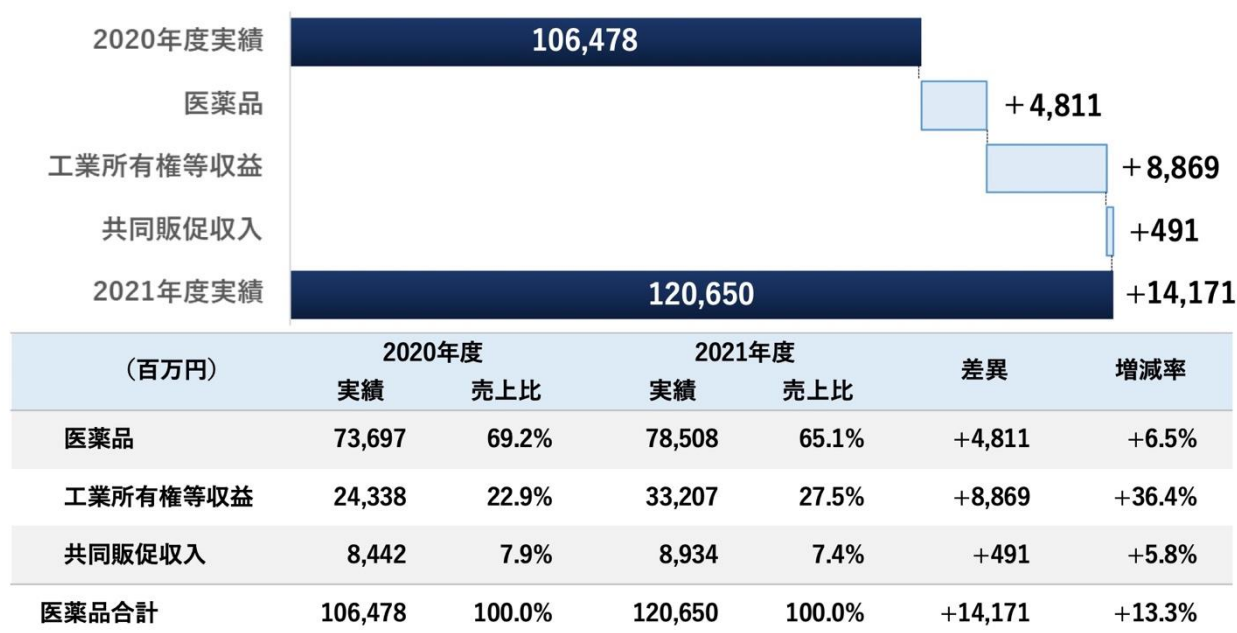


NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

3

2021年度の業績の概要ですが、連結売上高 1,375 億 4,700 万円、営業利益 282 億 9,900 万円、経常利益 297 億 7,300 万円、当期純利益 230 億 4,400 万円となりました。

# 医薬品売上の内訳



「ビダーザ」、「ウプトラビ」、「ビルテプソ」等の医薬品売上の伸長、「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入や優先審査バウチャーの売却収入を含む工業所有権等収益等が寄与し、13.3%の増収となりました。

NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

4

医薬品事業ですが、骨髄異形成症候群・急性骨髄性白血病治療剤「ビダーザ」、肺動脈性肺高血圧症・慢性血栓栓性肺高血圧症治療剤「ウプトラビ」、デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「ビルテプソ」などが伸長しました。

加えて、「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入や、優先審査バウチャーの売却収入などが寄与し、医薬品事業の連結売上高は、1,206億5,000万円、対前期比13.3%の増収となりました。

# 機能食品売上の内訳



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
プロテイン製剤	10,121	65.7%	10,892	64.5%	+771	+7.6%
品質安定保存剤	2,597	16.9%	2,787	16.5%	+190	+7.3%
健康食品素材	1,257	8.2%	1,075	6.4%	△181	△14.4%
その他	1,431	9.2%	2,140	12.6%	+709	+49.6%
機能食品合計	15,406	100.0%	16,897	100.0%	+1,490	+9.7%

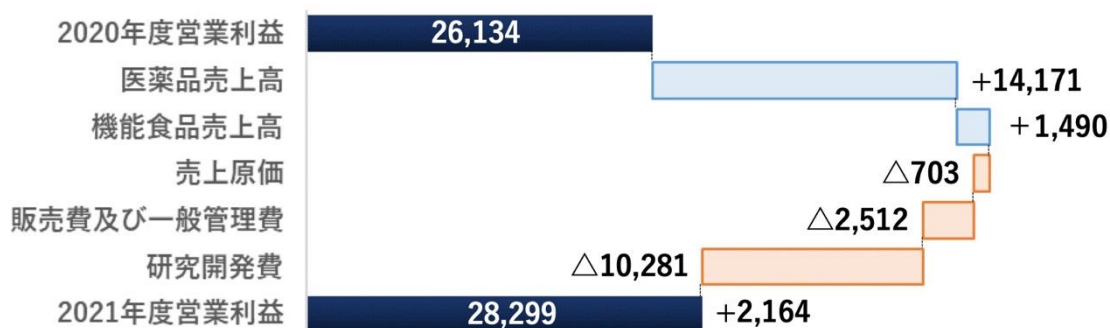
プロテイン製剤、品質安定保存剤等の売上が増加し9.7%の増収となりました。



5

次に機能食品事業ですが、プロテイン製剤、品質安定保存剤などの売上が増加し、連結売上高は、168億9,700万円と、対前期比9.7%の増収となりました。

# 営業利益



(百万円)	2020年度		2021年度		差異	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	121,885	100.0%	137,547	100.0%	+15,662	+12.8%
（医薬品）	(106,478)	(87.4%)	(120,650)	(87.7%)	(+14,171)	(+13.3%)
（機能食品）	(15,406)	(12.6%)	(16,897)	(12.3%)	(+1,490)	(+9.7%)
営業費用	95,750	78.6%	109,248	79.4%	+13,497	+14.1%
売上原価	49,954	41.0%	50,657	36.8%	+703	+1.4%
販売費及び一般管理費	29,691	24.4%	32,204	23.4%	+2,512	+8.5%
研究開発費	16,104	13.2%	26,386	19.2%	+10,281	+63.8%
営業利益	26,134	21.4%	28,299	20.6%	+2,164	+8.3%

NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

6

次に営業費用ですが、売上原価率は、工業所有権等収益の増加など、売上構成等の要因により、前期と比べ4.2ポイント改善し、36.8%となりました。

販売費および一般管理費は、新型コロナウイルス感染症により抑制されていた営業活動の増加に伴う費用、「ウプトラビ」の国内売上増加に伴う販促委託料、機能食品事業の販売強化に伴う費用などの増加により、322億400万円と、対前期比8.5%の増加となりました。

研究開発費は、臨床試験の進展に伴う核酸医薬品の治験薬製造費用などの増加に加え、昨年11月にオプション契約を締結した「DYN101」や、本年1月に米国における販売提携契約を締結した「CAP-1002」の契約一時金の計上などにより、263億8,600万円と、対前期比63.8%の増加となりました。

結果として、営業利益は282億9,900万円と、対前期比8.3%の増益となりました。



# 親会社株主に帰属する当期純利益



(百万円)	2020年度 実績	2021年度 実績	差異	増減率
営業利益	26,134	28,299	+2,164	+8.3%
営業外収益	1,326	2,359	+1,032	+77.8%
営業外費用	701	884	+183	+26.2%
経常利益	26,760	29,773	+3,013	+11.3%
特別利益	1,998	-	△1,998	-
法人税等	8,056	6,729	△1,327	△16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20,702	23,044	+2,341	+11.3%



7

経常利益は 297 億 7,300 万円で、対前期比 11.3%の増益、当期純利益は 230 億 4,400 万円で、対前期比 11.3%の増益となりました。

# 2022年度 連結業績予想 (IFRS)

(百万円)	2021年度 実績*	2022年度 予想	差異	増減率
売上収益	137,484	134,000	△ 3,484	△ 2.5%
営業利益	32,936	27,000	△ 5,936	△ 18.0%
税引前利益	33,266	27,500	△ 5,766	△ 17.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	25,011	21,500	△ 3,511	△ 14.0%

\*2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

国際的な比較可能性の向上を図ることを目的として、  
2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表より、  
国際財務報告基準 (IFRS) の任意適用を行います。

続きまして、2022年度の通期業績見通しについて説明いたします。

弊社の株主構成のうち外国人投資家の割合は高い水準が続いていることから、財務情報の国際的な比較可能性の向上を図ることを目的として、2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表より、国際財務報告基準の任意適用を行うこととしました。

それを踏まえた2022年度の通期業績見通しにつきましては、連結売上収益1,340億円、連結利益は、営業利益270億円、税引前利益275億円、当期利益215億円となる見込みです。



# 医薬品売上予想の内訳 (IFRS)

(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
医薬品	78,508	65.1%	75,700	65.8%	△ 2,808	△ 3.6%
工業所有権等収益	33,207	27.5%	29,800	25.9%	△ 3,407	△ 10.3%
共同販促収入	8,934	7.4%	9,500	8.3%	+566	+6.3%
医薬品合計	120,650	100.0%	115,000	100.0%	△ 5,650	△ 4.7%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

「ビルテプソ」や「ウプトラビ」などの新製品群の伸長、「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入を含む工業所有権等収益や共同販促収入などの伸長が見込まれるものの、薬価改定や「ビダーザ」の後発品発売、前連結会計年度にあった優先審査バウチャーの売却収入の反動により、減収を見込んでいます。

医薬品事業においては、売上収益 1,150 億円で、前期と比べ、4.7%の減収を見込んでおります。

「ビルテプソ」や「ウプトラビ」などの新製品群の伸長に加え、工業所有権等収益のうち「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入、共同販促収入などの伸長が見込まれるものの、薬価改定や「ビダーザ」の後発品発売、前連結会計年度にあった優先審査バウチャーの売却収入の反動により、減収を見込んでおります。

# 機能食品売上予想の内訳 (IFRS)

(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
プロテイン製剤	10,870	64.6%	13,000	68.4%	+2,130	+19.6%
品質安定保存剤	2,788	16.6%	2,900	15.3%	+112	+4.0%
健康食品素材	1,078	6.4%	1,100	5.8%	+22	+2.0%
その他	2,096	12.4%	2,000	10.5%	△ 96	△ 4.6%
機能食品合計	16,834	100.0%	19,000	100.0%	+2,166	+12.9%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

新製品開発・投入に一層注力し、重点品目への取り組みを強化することで、増収を見込んでいます。

機能食品事業は、売上収益 190 億円で、前期と比べ、12.9%の増収を見込んでおります。新製品開発に一層注力し、重点品目への取り組みを強化することで、増収を見込んでおります。

# 予想損益計算書 (IFRS)



(百万円)	2021年度		2022年度		差異	増減率
	実績*	売上比	予想	売上比		
売上収益	137,484	100.0%	134,000	100.0%	△ 3,484	△ 2.5%
(医薬品)	(120,650)	(87.8%)	(115,000)	(85.8%)	(△ 5,650)	(△ 4.7%)
(機能食品)	(16,834)	(12.2%)	(19,000)	(14.2%)	(+2,166)	(+12.9%)
売上原価	50,188	36.5%	51,000	38.1%	+812	+1.6%
販売費及び一般管理費	32,195	23.4%	31,900	23.8%	△ 295	△ 0.9%
研究開発費	22,870	16.6%	24,400	18.2%	+1,530	+6.7%
その他の収益	1,578	1.1%	800	0.6%	△ 778	△ 49.3%
その他の費用	872	0.6%	500	0.4%	△ 372	△ 42.7%
営業利益	32,936	24.0%	27,000	20.1%	△ 5,936	△ 18.0%
金融収益	472	0.3%	500	0.4%	+28	+5.8%
金融費用	142	0.1%	-	-	△ 142	-
税引前利益	33,266	24.2%	27,500	20.5%	△ 5,766	△ 17.3%
法人所得税費用等	8,254	6.0%	6,000	4.5%	△ 2,254	△ 27.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	25,011	18.2%	21,500	16.0%	△ 3,511	△ 14.0%

\* 2021年度実績は日本基準からIFRSへ変換済み  
(2021年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

11

次に営業費用ですが、売上原価率は 38.1%と、前期と比べ、1.6 ポイントの悪化を見込んでおります。

販売費および一般管理費は、319 億円、研究開発費は、244 億円を見込んでおります。

その結果として、営業利益 270 億円、税引前利益 275 億円、当期利益につきましては 215 億円となる見込みです。

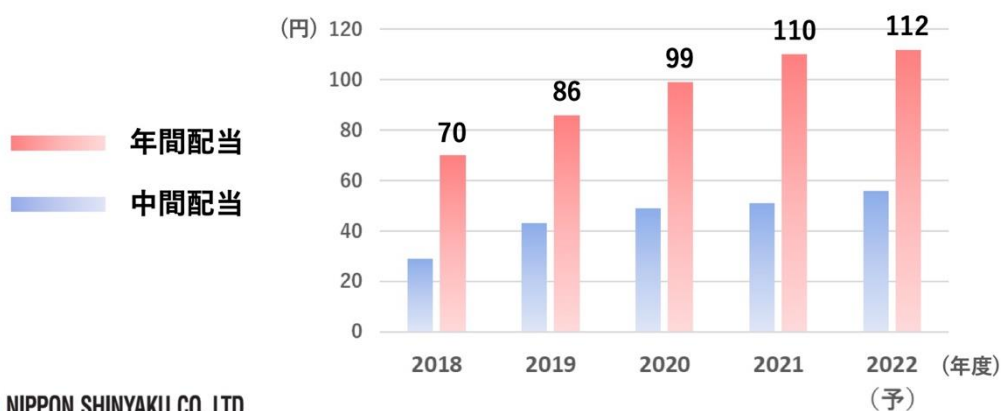
# 配当予想



	2021年度	2022年度
普通株式1株当たり配当金	中間配当金	56 円
	年間配当金	112 円
1株当たり当期純利益 / 基本的1株当たり当期利益	342.14 円	319.21 円
配当性向 (連結)	32.2 %	35.1 %

\* 2021年度の期末配当金については52円から59円へ増配

\* 2022年度の基本的1株当たり当期利益および配当性向 (連結) については、国際財務報告基準 (IFRS) に基づき算出



NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

12

配当につきましては、第六次中計期間中について業績連動型の配当として、連結配当性向 35%前後の配当を実施する予定です。

当期の配当金につきましては本配当方針にのっとり、中間配当金 1 株当たり 56 円、期末配当金 1 株当たり 56 円の、年間 112 円を予定しております。

なお、前期の期末配当金につきましても、52 円から 59 円に増配し、年間配当金を 103 円から 110 円に増配する予定です。

以上、2021 年度の業績と 2022 年度通期業績見通しについての説明を終わらせていただきます。

# 研究開発の進捗状況（国内）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	PI/II準備中	PII	PIII準備中	PIII	申請中	発売準備中	発売
NS-065/NCNP-01 (ビロチルゼン) (自社)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー					PIII 実施中			
NS-32 (フェリナトス第二鉄) (導入)	新成分	鉄欠乏性貧血								
ZX008 (フェンアラミン塩酸塩) (導入)	新成分	ドラベ症候群								
ZX008 (フェンアラミン塩酸塩) (導入)	新成分	レノックス・ガスター症候群								
GA101 (オビヌズマブ) (導入)	新効能	ループス腎炎								



■：2021年度第3四半期決算時からの変更箇所

14

高垣：引き続きまして、研究開発品目の進捗状況について説明いたします。

まずは国内の開発状況について説明いたします。

デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「NS-065/NCNP-01」につきましては、2020年3月に承認され、5月に販売を開始しました。現在グローバルフェーズ3試験を実施中です。

鉄欠乏性貧血治療剤「NS-32」につきましては、本年3月に製造販売承認を取得し、現在発売準備中です。

難治てんかん治療剤「ZX008」につきましては、ドラベ症候群の適応で、ゾジェニックス社が2021年12月に承認申請を実施しました。

また、レノックス・ガスター症候群を適応として、導入元のゾジェニックス社がフェーズ3試験を実施中です。

「GA101」につきましては、中外製薬株式会社と共同で、ループス腎炎を対象としたフェーズ3試験を準備中です。

# 研究開発の進捗状況（国内）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	PI/II準備中	PII	PIII準備中	PIII	申請中	発売準備中	発売
NS-304 (レシチンゲ) (自社)	新効能	閉塞性動脈硬化症								
	新用量	小児肺動脈性肺高血圧症								
NS-580 (自社)	新成分	子宮内膜症								
NS-87 (daunorubicin / cytarabine) (導入)	新配合	二次性急性骨髄性白血病								
NS-401 (tagraxofusp) (導入)	新成分	芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍								
NS-229 (自社)	新成分	炎症性疾患								
NS-917 (radgocitabine) (導入)	新成分	再発・難治性急性骨髄性白血病								

■：2021年度第3四半期決算時からの変更箇所

15



「NS-304」につきましては、閉塞性動脈硬化症を適応として、日本新薬が単独で、本年2月にフェーズ2b試験を開始しました。また、小児の肺動脈性肺高血圧症を対象としたフェーズ2試験を、ヤンセンファーマ株式会社と共同で実施中です。

子宮内膜症治療剤「NS-580」につきましては、フェーズ2a試験を実施中です。

二次性急性骨髄性白血病治療剤「NS-87」につきましては、フェーズ1/2試験を実施中です。

芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍治療剤「NS-401」につきましては、フェーズ1/2試験を準備中です。

JAK1阻害剤「NS-229」は、炎症性疾患を対象としてフェーズ1試験を実施中です。

再発・難治性急性骨髄性白血病治療剤「NS-917」につきましては、本年2月にフェーズ1試験を開始しました。



# 研究開発の進捗状況（海外）



開発品目	申請区分	適応症等	PI	P II 準備中	PII	PIII 準備中	PIII	発売
NS-065/NCNP-01 (ヒルトラルゼ) (自社)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー					PIII 実施中	
CAP-1002 (提携)	新成分	デュシェンヌ型筋ジストロフィー						
NS-018 (ilginatinib) (自社)	新成分	骨髄線維症						



続きまして、海外の開発状況について説明いたします。

デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「NS-065/NCNP-01」につきましては、2020年8月に米国で承認され、販売を開始しました。現在グローバルフェーズ3試験を実施中です。欧州では、2020年6月にオーファンドラッグ指定を受けました。

なお、中国では、2021年6月に承認申請を行いました。中国当局との相談の中で、日米では早期承認のため症例数が少ないことから、グローバルフェーズ3試験の成績をもった再申請を推奨されたため、いったん申請を取り下げました。欧州と同様に、グローバルフェーズ3試験の成績をもった再度承認申請を行う予定です。

デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「CAP-1002」につきましては、カプリコール・セラピューティクス社と、本年1月に米国における販売提携契約を締結しました。現在、カプリコール・セラピューティクス社が米国でフェーズ3試験を準備中です。

骨髄線維症治療剤「NS-018」につきましては、米国において次の試験を準備中です。

以上、研究開発の概況の説明を終わらせていただきます。